

1. キッズファーストアクション 事業概要

- 2025年度
- ・活動方法を周知するための資料を全加盟校に配布
 - ・活動のための用具（KFAグッズ）を希望する加盟校に配布
 - ・象徴イベント(キッズファーストアクションin東京ドーム)の開催

KFAグッズ

1	 (サイズ:9インチ)	ビニールボール …1セット 10 個 参加者へのプレゼントにお使いください。 活動の場でお使いいただいても構いません。
2		リストバンド …1セット 20 個 (20 個＝4色(桃、水色、黄色、緑)×5個) グループ分けなどをする際、お使いください。
3	 グループ分けなどに こちらの方	キャップ …1セット 20 個 (20 個＝4色(桃、水色、黄色、緑)×5個) グループ分けなどをする際、お使いください。 ※写真はイメージ
4	 (サイズ:11インチ)	N-ball …1セット3個 T 台、コーン台を使つてのバッティングやス トラックアウト、キャッチボールなどにお使 いください。
5	 申し込みは2セットまで	T台セット《A》 …T台、バット(69センチ) 年長、小学1、2年生を対象とした活動の際に お使いください。
6	 申し込みは2セットまで	T台セット《B》 …コーン台、バット(61センチ) 年小、年中を対象活動の際にお使いくださ い。

全加盟校に配布した資料

未就学児との接し方や遊び方についての教材



2. キッズファーストアクション 1年目報告

出発点（連携前） 2024年度活動実績 28連盟、367校（加盟校の約9%）



1年目（今回の報告）

2025年度活動実績 （対象期間：2025年3月～2026年2月）
45連盟、804校（加盟校の約20%）←前年度比約119%増

※うちKFAグッズ申請 36連盟、280校



（今後の目標）

2026年度は全都道府県連盟、2027年度は加盟校の半数での活動実施を目指す

2025年度 キッズファーストアクション提供グッズ申請 および 普及活動実施報告状況															
															2026年 6 月23日現在
	2024年度活動報告			2025年度活動報告					2024年度活動報告			2025年度活動報告			
	報告校数	加盟校数 (硬式＋軟式)	割 合	KFAグッズ 申請校数	独自活動 報告校数	加盟校数 (硬式＋軟式)	割 合		報告校数	加盟校数 (硬式＋軟式)	割 合	KFAグッズ 申請校数	独自活動 報告校数	加盟校数 (硬式＋軟式)	割 合
北海道	21	211	10.0%	5	4	201	4.5%	滋 賀		56	0%			56	0%
青 森		58	0%			57	0%	京 都	8	82	9.8%	1	11	81	14.8%
岩 手	9	71	12.7%	7	46	69	76.8%	奈 良	4	46	8.7%	4	2	46	13.0%
秋 田		49	0%	1	22	48	47.9%	和歌山	17	42	40.5%	9	30	42	92.9%
山 形		46	0%	2	6	44	18.2%	大 阪		211	0%	5		206	2.4%
宮 城	3	81	3.7%		5	77	6.5%	兵 庫	24	171	14.0%	8	5	176	7.4%
福 島	5	69	7.2%		68	68	100%	岡 山	23	75	30.7%		8	76	10.5%
茨 城	9	116	7.8%	3	4	116	6.0%	鳥 取	17	32	53.1%	20	3	32	71.9%
栃 木	10	66	15.2%		8	66	12%	広 島		106	0%	38		106	35.8%
群 馬	12	81	14.8%	14	14	81	34.6%	島 根	21	42	50%	27	1	42	66.7%
埼 玉	7	171	4.1%	1	3	170	2.4%	山 口	23	60	38.3%	14	9	61	37.7%
山 梨	14	34	41.2%	16	17	34	97.1%	香 川	14	41	34.1%	2	3	40	12.5%
千 葉	16	179	8.9%	13	23	181	19.9%	愛 媛	4	58	6.9%	2		58	3.4%
東 京	41	347	11.8%	28	13	339	12.1%	徳 島		32	0%	3		32	9.4%
神奈川	1	211	0.5%		25	210	11.9%	高 知		29	0%	12		28	42.9%
長 野		94	0%	2	44	94	48.9%	福 岡		145	0%	4		145	2.8%
新 潟		83	0%		34	80	42.5%	佐 賀		37	0%	2	2	36	11.1%
富 山	1	45	2.2%	7	1	44	18.2%	長 崎		58	0%		18	58	31.0%
石 川	6	50	12.0%	2	2	50	8.0%	熊 本		65	0%	3	10	64	20.3%
福 井		28	0%		26	28	92.9%	大 分	3	47	6.4%	1		47	2.1%
静 岡	22	111	19.8%	2	7	111	8.1%	宮 崎		47	0%	8	20	47	59.6%
愛 知	16	198	8.1%	1	8	197	4.6%	鹿児島		82	0%	9	3	80	15.0%
岐 阜	16	78	20.5%	1	18	77	24.7%	沖 縄		66	0%		1	64	1.6%
三 重		72	0%	3		72	4.2%	合 計	367	4,179	8.8%	280	524	4,137	19.4%

3. 1年目実績（2025年度）活動振り返り（各校の報告、アンケートから抜粋）

（用具について）

- ▷用具提供があり、準備がしやすかった
- ▷用具を使ったゲームなどを実施、喜ばれた
- ▷リストバンドを使ったグループ分けが分かりやすかった
- ▷扱いやすい用具だった（園児も使いやすそうだった）
- ▷ボールなど用具を準備するのがいつも大変なので助かった
- ▶他の用具があるといい（グローブ、ストラックアウト、高さ・サイズが異なる、など）

（実施の感想など）

- ▷園児も喜んでいて、高校生にとってもメリットがある。継続したい
- ▷こどもたちが思っていた以上に野球が楽しいと言ってくれたので、やりがいを感じた
- ▷園の先生方からも楽しみにしてもらっていたようである。継続開催を依頼された
- ▷来場された保護者も満足そうだった
- ▷高校生の指導や一緒に遊ぶ姿が保育園の職員や子供の保護者から高い評価を得た
- ▷ペットボトルや新聞紙の手作りバットが好評だった
- ▷サッカーは経験あるが、野球は初めてということも達も「楽しかった」と言ってくれた
- ▷先生方からサッカーはやる機会があるが、野球はできる場所がなく、経験できないと言っていた。いい機会をありがとうございます、と言われた
- ▷普段輪の中に入れなかった子が積極的に参加し、保育士のみなさんがびっくりしておられ、高校球児の力は凄いと感心された
- ▶イベントの周知や集客がむずかしい

（指導者のコメント）

- ▷高校生が運営を通じて成長できる機会、好きな野球を通して地域貢献のよい機会となった。思い切ってやってみてよかった
- ▷現役引退した3年生が活動し、地域の方々への恩返しを形として残せた
- ▷底辺拡大を目的として実施したが、本校部員への好影響が見て取れ、やってよかった
- ▷もっとたくさんの園で実施するために、たくさんの学校の協力が必要
- ▷物事を伝える難しさを感じ、ジェスチャーなど工夫して伝える様子が見られた
- ▷どう実施したら喜んでもらえるか、考えながら準備・実施でき、思考力を身につける機会となった
- ▷喜んでもらえたが、部員不足で悩んでいるチームのため、継続が課題
- ▷高校生も地域とのつながりや野球の楽しさを改めて感じる事ができた
- ▷少年野球チームやクラブに所属する前に活動や体験ができる場所へのニーズがあることを実感した
- ▷自校の選手に活動内容を計画させましたが、今まで受け身で動いていた選手に今回の活動を通じて自主性が芽生えたように思います。

（生徒のコメント）

- ▷自分が野球を始めたころを思い出した
- ▷相手が楽しそうにしていると自分も楽しくなることがわかった
- ▷言葉で教えたり、話を聞いてもらうのがむずかしかった
- ▷最初は心を開いてもらえなかったが、最後にキャッチボールしたり、楽しくできた
- ▷将来、教育関係の仕事につきたいと考えているので、いい経験になった

4. 2026年度の取り組み

- ・ 事業
 - ・ 活動のための用具（KFAグッズ）を希望する加盟校に配布
 - ・ 象徴イベントの開催
- ・ 2年目に向けた対策
 - 加盟校への周知の徹底
 - ・ 監督経験者らが中心となる日本高等学校野球連盟の技術・普及委員会にKFAワーキングチームを設置。委員が各地の監督会議などに出向いてKFAの説明、協力をお願いなどを行う。
 - ・ 初年度に活動や報告が無かった連盟に対してヒアリングを実施し、活動に至らない要因を探る。
 - ・ 日本高等学校野球連盟サイト内で加盟校の活動事例を紹介する。
 - 加盟校の負担の軽減
 - ・ 保育園、幼稚園の統括団体に対して協力を改めて依頼し、連携のしくみ化を目指す。
 - 報告の簡便化
 - ・ 加盟校からの報告方法や設問をできるだけ簡便にし、報告漏れを防ぐ。

5. (参考) キッズファーストアクションの概要

・ 2025年7月、日本野球機構と日本高等学校野球連盟が「合意書」を締結

一、両団体は、全国の未就学児等に対し、各都道府県高等学校野球連盟加盟校の野球部部員と「投げる」「捕る」「打つ」「走る」等のボールあそびをする機会を47都道府県に創出する。また、幼児期に必要な多種多様な動きや運動を経験してもらうことにより健やかな成長、発育・発達に寄与し、野球を通じて体を動かすことの楽しさ、面白さを知るきっかけの場を提供する。

一、両団体は、高校球児が未就学児等とボールあそびをする「体験活動」を通じて、高校生の豊かな人間形成を育み、本活動を通じた学校と地元社会との連携、協働により、地域全体で幼児と高校生の成長を支えることに寄与する。

一、両団体は、この事業連携、協力により全国の高校球児が地元の保育園、幼稚園等を訪問するなどのイベントが継続して実施され、全国に定着することを目指す。

・ 期待される効果

【高校生】 ① 未就学児とあそぶことは文科省推奨の「体験活動」の機会となり、豊かな人間形成を育む

(高校) ② 高校と地元社会との連携・協働により、地域の力で子どもたちの成長に寄与し、地域貢献にもつながる

③ 高校野球200年構想の目的と合致

【未就学児】 ① 野球につながるボールあそびで多種多様な動き、運動を自然に経験することで心身の発育・発達に役立つ

② 体を動かす楽しさ、面白さを知ることによって運動習慣のきっかけになる 野球、スポーツを始めるきっかけになる

【NPB】 ① 日本高等学校野球連盟と47都道府県連盟との連携・協力することにより、12球団の本拠地（11都道府県）以外でも計画的に全国に拡大し、定着することができる

② 日本野球機構の定款の目的とも合致